

NPO 法人 ベーシックライフインフォメーション協会 会報 第24号

令和四年度の総会報告

6月18日に練馬ココネリ会議室に於いて令和四年度の総会を開催、出席者による審議の結果、提出された七つの議案全案が賛成多数で承認・決定されました。

- 第1号議案 令和3年度事業報告
- 第2号議案 令和3年度会計報告
- 第3号議案 令和3年度会計監査報告
- 第4号議案 令和4年度事業計画
- 第5号議案 令和4年度予算
- 第6号議案 役員・理事の選任
- 第7号議案 議事録署名人の選出

新理事長に児玉治氏

総会で理事三人が選出され、理事に依る互選の結果児玉治氏が理事長に選任されました。

- 理事長 児玉 治
- 理事 加藤美智子
(副理事長)
- 理事 中村 和利
(事務局担当)

また、理事長を長年歴任し当協会の運営・発展に尽くされた田代寛範元理事長の功績に鑑み名誉理事長職を新たに設置し、同氏を選任しました。

令和四年度事業計画

映画等上映事業
協会製作のドキュメンタリー映画「空を拓く建築家・郭茂林という男」の貸し出し及び協会による上映会実施。
年4回東京都内又はココネリホール

国際親善交流事業

1. 「オール台湾デー」の開催
2. 台湾人戦没者慰霊参拝



NPO Bsic Life Information Association

Newsletter Contents

- 2022 Annual Meeting Report
- Initial Statement by Chairman
- Search for useful substances contained in Yacon, native crops of Andean highlands, and international exchange with Peru
- Memorial service for the war dead Taiwanese
- Recollection of the association activities — progress and achievements —
- The story of rescue dog "Gou"
- Members movement and exchange
- Looking back the past newsletter release
- Editors Note

NPO ベーシックライフインフォメーション協会

会報目次

- 1 令和4年度総会報告
- 2 新理事長の抱負と決意
新理事長業績紹介
アンデス高地原産作物ヤーコンに含まれる有用物質の探索とパルとの国際交流の展開
- 2 台湾人戦没者慰霊碑追悼式
- 3 協会活動を顧みる —あゆみ—
- 3 救助犬「江」の半生
- 4 会員動静・団体交流
- 5 会報発行の遷移
- 6・7 会報23号までの製作に携わって
- 8 編集後記

NPO 基礎生活資訊協會

會報目錄

- 1 2022年度總會報告
- 2 新任理事長就職期首聲明
新任理事長業績介紹
探索安第斯高原原產雪蓮果含有的有用物質與秘魯發展國際交流
- 2 台湾人戰死者紀念碑追悼服務
- 3 協會活動回憶 —進展與成就—
- 3 搜救犬「小江」的故事
- 4 會員動作・交流
- 5 通訊發布的轉變
- 6・7 回顧參與製作通訊至第23期
- 6 編輯結語
- 8

新理事長の抱負と決意

児玉 治

今年度からNPO法人ベーシックライフインフォメーション協会理事長を仰せつかりました児玉治です。当協会への加入は5年前ですが、今までの経験・人脈を活かして務めさせて頂く所存です。

理事長の方針としては、今までの伝統、とくに協会製作の映画「空を拓く」上映、台湾人戦没者慰霊碑での追悼式、およびオール台湾デーの開催の三つを尊重しつつも、当協会の定款にも記載され、協会の名称からしても、今後は訪日外国人への積極的なアプローチも行う予定です。

また当協会の問題点として、会の運営に寄付金に頼らざるを得ないこと。それと会員の入れ替わりが激しいことが挙げられます。理事長としては、この二点の解決に積極的の取り組みつもりです。

いずれにしても会員皆様のきたないご意見を受け止め、理事会および総会へ反映するようにいたしますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

「理事長プロフィール」

1946年生まれ。福岡県大牟田市出身。茨城大学農学部卒。北海道大学において農学博士を取得後、米田ノースカロライナ州立大学研究員を経て、茨城大学教授。その間、講演、国際会議出席等で世界25か国以上訪問。多くの留学生の指導を行う。日本農薬学会業績賞受賞。

現在、茨城大学名誉教授。华中師範大学生命科学学院名誉教授。米国テキサス州アマリコ市名誉市民。民生委員・児童委員等多数の社会活動に従事。特別養護老人ホーム非正規介護職員。NPO法人日本ヤーコン協会理事（次期理事長）。

アンデス高地原産作物ヤーコンに含まれる有用物質の探索とペルーとの国際交流の展開

会員 児玉 治

植物には健康に役立つ物質の存在が多数知られている。セイヨウシロヤナギにサリチル酸が発見され、頭痛薬として知られているバッファリンの主成分であることは典型的な例の一つである。

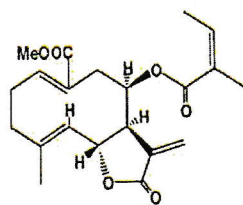
茨城大学農学部のグループは1985年に日本に持ち込まれたキク科根菜ヤーコンに着目して、まず栽培法を確立した。その後、食用に供される塊根の糖分析を開始した。その結果、表に示したようにヤーコンに含まれるフラクトオリゴ糖が他の野菜に比較してき



わめて多いことが明らかになった。

このフラクトオリゴ糖には極めて多くの生理活性を示すことが知られている。最近、とくに注目されているのがフラクトオリゴ糖は消化されずに腸まで届き腸内細菌の働きを助け小腸免疫に深く関与している。従ってヤーコンの塊根を食すると免疫活性の増加が予想され、それにもない感染防御に貢献することが示唆される。

一方、地上部の葉を食する虫の死亡が確認されたことから、葉に殺虫物質の存在が示唆された。そこで各種精製装置を用いて純粋な殺虫物質が得られることから構造解析を試みた。ガスクロマトグラム質量分析装置や核磁気共鳴装置などを駆使して、構造解析に成功した。幸い新規物質だったのでソnichホリンと命名し、参考までに、その構造を図に示した。そ



ソnichホリン

各種野菜類のフラクトオリゴ糖含量

	フラクトオリゴ糖 (%)		水分 (%)	炭水化物 (%)
	可食部中	乾物中		
タマネギ	2.8	25.0	89.0	9.3
ネギ	0.2	1.9	91.5	4.4
ニンニク	1.0	2.2	57.1	24.3
ゴボウ	3.6	16.7	78.5	16.4
ライムギ	0.7	0.7	11.5	69.5
バナナ	0.3	1.3	75.5	19.2
ヤーコン	7.3	59.7	88.3	10.2

の後、別の研究グループがガンの培養細胞を用いてソnichホリンの効果を見出した結果、顕著な抗ガン作用を見出し、今後のさらなる研究が待たれる。

このようにヤーコンはきわめて興味ある作物であることが明らかになってきたことから1998年ヤーコン研究会（現NPO法人日本ヤーコン協会）が発足し、開会式にはペルー全権大使が来賓として出席され、特別講演がなされた。さらに翌年、児玉らがペルーを訪問し、ペルーのヤーコン研究者との交流を深めた。その後、ペルーのラ・モリーナ農業大学の副学長をお招きし、茨城大学農学部とラ・モリーナ農業大学とで研究協定を結び、さらなるヤーコン研究の進展が期待されている。

（理事長・茨城大学名誉教授）

台湾人戦没者慰霊碑で 追悼式

本協会恒例の奥多摩湖畔にある台湾人戦没者慰霊碑での追悼式が、十一月三日に日本と台湾有志の参加により行われた。追悼式は日蓮宗弘宣院の住職、内田日泰氏の司式により施行された。内田氏は、千葉の匝瑳市より関東平野を横断して遠路遙々お越しいただいた。恵まれた天気の中、読経と鈴の音が紅葉の混じる木々に木霊し、戦没者を慰霊するとともに参列者の心も洗われた。



協会活動を顧みる

—あゆみ—

会員 加藤美智子

「継続は力なり」を念頭に、今振り返ってペンを取ります。

私ははじめの一步として時代の変化を共有し、企画・運営・ふれあいの活動を続けてきました。

常にテーマは新旧交流、協会会員の情熱でありました。対象を台湾に特化して文化交流、親睦の道づくり、つながりです。事業計画を基本に置き活動のスタートを切りました。ふるさと台湾は遠くて近き国、いま国際的に注目されています。何か使命感を持つ活動計画は、会員と一丸となって進め完了させました。

大きな達成感の内幕に徹して実働したことです。自他共用して終始一貫、



成果を挙げた中にあります。種々の目的の訪台が年8回の時もあり出合いがありました。舞台裏の活動に奔走しました。わが身を削る思いでした。短歌にします。

耐ゆることいつか身に付き我が胸に

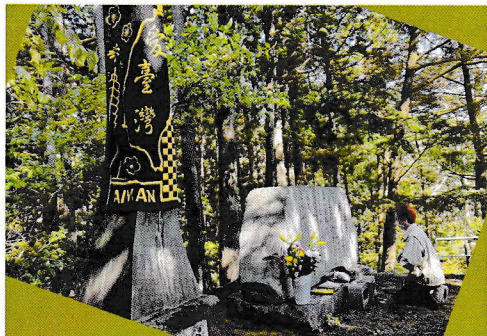
おのれを庇い（かばい）

日々清しと生きる

生まれ故郷台湾はスピーディに素晴らしい近代化にあります。文化教育インフラ福祉において著しい。

過去の日台の合言葉は運命共同体であったこと、互いに良き長き歴史の友であります。先人の方の努力の基盤の上日台関係の構築の歩みを強く感じます。

原点を忘れずこれからも幅の広い親善交流をしていけることを、期待してペンを置きます。
(前理事長)



追記

私の経歴に触れます。各会のスタート共同活動があります。

母 加藤淑子（灣生 北一女25期卒業）の存在、練馬方面台湾会（昭和60年発足）のちに東京台湾の会に名称変更、その後 特定非営利活動法人ベリシックライフインフォメーション協会の実行、執行部隊で動いてきました。愛台湾を強く感じ繋げること共有時間にするがありました。たくさん喜びがあります。

その1 日台学校交流 台北市立台北第一女子高級中学とお茶の水女子大学付属高校との姉妹校締結の橋渡し。

その2 災害救助犬を高雄市政府消防局に寄贈し交流を図った。現在台湾住。

その3 日本芸能祭 詩吟剣舞詩舞、書道華道を台湾台北市福華飯店で開催。

その4 ドキュメンタリー映画「空を拓く」の発起人として活動。東京国際映画祭上映。

その5 日本伝統文化の手描き友禅による台湾大振袖の作製その他、協会事務所の提供等々です。

私は基本理念として、ふれあいの一步一步を大切に責任のある理事、副理事長、理事長として今日まで微力を尽くしてきました。これから未来に綴る夢に向かって努力して行きたい……文章に残します。

「江」は何語で夢を見る 救助犬「江」の半生

会員 中村和利

台湾を助けに日本から出向くという、「釣りに行く」と言いつて戦戦間もない日本から秘密裏に金門島の守備を応援しに行った根本博中将の話は、最近表に出てきた戦後史で、漸く書籍に登場して歴史の1ページとして語られるようになってきました。しかし、きょうのこのお話は、中型犬で のんびりと幸せな生活を送っていたにもかかわらず、見た目が黒かったが為に、訓練を受けて台湾の災害救助犬として生きるようになった、柴犬の「江」(こう)の話です。

「江」は千葉県の匝瑛市で生まれました。茶系統の個体が多い柴犬の中では珍しい黒い色の柴犬でした。この生まれついでの特徴が「江」の運命を大きく変えてしまふとは、子犬の頃の「江」には知る由もありませんでした。生後40日、ぬいぐるみの様なかわいい黒柴は、縁あって当協会の加藤美智子前理事長の誕生日にプレゼントされ、東京・練馬で幼少期を送ることになりました。

千葉生まれの東京育ち、ペット用の犬でなくとも普通の都会的な生き方に慣れていた「江」に変化が訪れるのは、日本と同じように自然災害が多発する台湾からの情報でした。地震、台風など度重なる自然災害が来る毎に人命救助に活躍する日本の救助犬は、様々な国で注目されつつありました。



聯合報

高雄搜救大隊 facebook

そこで加藤氏は、ペットの「江」にもその訓練が受けられないものかと考えました。しかし犬に詳しい会員さんに聞いたところ、「日本犬は人に仕える仕事などにはあんまり向いてないし、ラブラドルやシェパードより颯爽と働いている秋田犬なんて見たことないでしょ。可愛いけど、あんまり機敏ではないかもしれないよ。」加藤氏は納得するものの、内心 人命救助なら柴犬くらいの大きさでもそれなりに仕事はあるのではないかと思っていたそうです。

そこに「江」には思いがけない現実が降りかかります。台湾側が求めているのは、黒い犬らしいという現実です。条件が揃ったついに「江」は災害救助犬の訓練センターに通うことになるのです。「驚くほど金が掛かった」と、一緒に育てた田代氏が今もそう語るように、認定をもらうまでには100万円単位の費用がかかったようです。そうした努力の甲斐あって「江」は、ついに日本犬としては珍しく数少ない災害救助犬の資格認定を取得します。

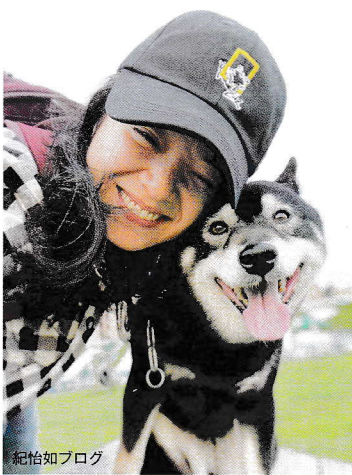
2016年、「江」にとつては思いもよらなかつた運命ですが、東日本大震災時の台湾からの応援へのお礼の意味も込めて、台湾の高雄市政府消防局に無償で寄贈されることになりました。この時のことを、

加藤氏は言います。「犬でも明日から生活が全く変わってしまうという予感を感じるんですね。前日の悲しい顔、そして諦めた顔を今も忘れられない」とのことです。

5月5日、市長・局長・各界トップ・メディアなどが大勢集まる盛大な高雄市の歓迎式典で引渡しが行われました。飼主だった加藤氏は、災害救助の日台相互交流という使命を「江」に託して涙ながら別れました。

大歓迎を受けたものの、生活環境の激変はペットにとつても大変な問題です。聞き慣れた日本語の生活が急に中国語に変わったら、少ししか言葉の判らない犬でも戸惑ったことでしょう。現地の暖かい受入れで次第に環境に馴染んだ「江」は、それから約3年の間、台湾高雄市の消防局で現役の消防犬として活躍しました。幸いなことに大きな震災などは発生せず、実際には人命救助の現場より、地域や子どもとの交流事業などの広報活動が中心になったようです。

時が経ち現在 大役を終えて引退した「江」は、広報活動の時の縁で、TVキャスターの紀怡如さんに引き取られ余生を送っているそうです。紀さんはベジタリアンで、「江」もそれに付き合わされている



紀怡如ブログ



紀怡如ブログ

とのこと。ベジタリアンの犬を他に知りませんが、素菜と呼ばれる精進料理では大豆からステーキもどきを作る国です。「江」の栄養状態は問題ないと思います。

因みに、台湾では愛称に「小」をつけることが一般的で、台湾に渡った「江」にも「小」が付けられ「小江」と呼ばれるようになっていました。「江ちゃん」という感じですが。ペットに戻った「江」は、きつと「小江！小江！」と可愛がられて幸せに暮らしていることでしょう。

加藤氏と一緒に「江」を可愛がり育てた田代元理事長は言います、「もう一度「江」に会ってみたい」と、「そして私達のことを憶えているかどうかを知りたい」と。

「江」については会報10・11・13・19・20・22号で、これまでの詳しい記事がご覧いただけます。会報バックナンバーについては本会報6～7頁をご覧ください。

会員動静

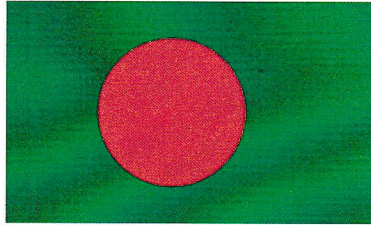
令和3年入会

M.D.モスタフィズル・ラハマン・ムフル

バングラディッシュ出身。貿易・人材紹介・コンサルティング会社経営。58歳。

バングラディッシュは1971年に建国された若い国。北海道の約2倍の国土に人口一億七千万人(日本の1.35倍)を擁する。国旗は、日章旗を参考にしたといわれている。国民は穏健なイスラム教徒で、米と魚を食べる文化を持ち、日本に親しみを持っているという。

今年には日本との国交50周年を迎え、年末には「バングラディッシュ経済特区」が



操業開始する。親日的で高度なIT人材を活かした日本との経済協力関係強化が望まれており、ムフル氏は日本とバングラディッシュの橋渡しに尽力されている。

1 バングラディッシュ概要

- インドとは国境を接し、ベンガル湾に面して大人口を擁する。近年出生率は94%
- 国語はベンガル語。英語、ヒンディー語、コメと魚を食べる文化。農業国
- 1971年独立の若い国。国名はベンガル語で「東の国」を意味する。
- 2022年(12月10日)、日本-バングラディッシュの国交50周年を迎える。祝賀一巡

主要データ

人口	1億6,933万人 (2020/21年度)
面積	14万7千5百km ² (北海道の約1.9倍)
国語	ベンガル語 (英語)
民族	ベンガル人 (98%)
宗教	イスラム教 (96%)
政府	共和制 (大統領制・アムラマム)
首都	ダッカ (最大の都市: 31.3%)
経済規模	4,620億ドル (2021年)
総人口	1,080人

3 日系企業の動向と今後の展望

「日系企業」の動向は、アジア日本商工会議所(2022年3月時点)

- 建設業、製造業、サービス業の動向を把握し、今後の展開を支援する。
- 海外展開のインフラプロジェクトの受注を目指す。建設業を中心に、日系企業の進出が期待される。
- 内訳をみると、建設業、IT企業からの進出も増加(オーストラリア、東南アジア、人材育成など)。
- 住友商事がバングラディッシュ経済特区 (BEZA) と提携する。「バングラディッシュ経済特区」(BEZA) (ジャヤソンタラ) プロジェクト(ジャヤソンタラ) 2022年に着工予定

進出日系企業数は過去10年で約7割増

バングラディッシュ経済特区 (BEZA) 2022年着工予定

令和4年入会

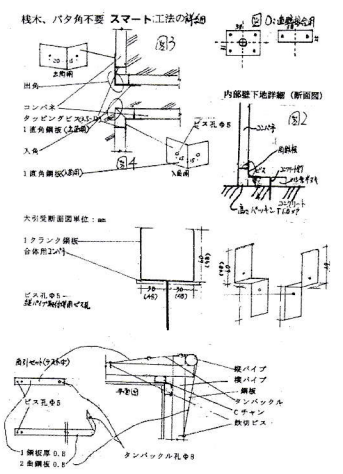
中村 敏夫

練馬区在住、工務店を自営50年。83歳。

田代名誉理事長と同郷の鹿兒島出身。同じく鹿兒島同郷の縁で稲盛和夫氏(京セラ・第二電電創業者・稲盛財団理事長・日本航空名誉会長)、救仁郷齊氏(建設省住宅局長・住宅公団・日本建築センター理事長)の知己を得てその指導と支援のもとに、

木無しで型枠を組む「スマート工法」を開発。「地球のみどりを守り」"ゴミ"を出さず、"ゴミ"にならない工法としてその普及に尽くしている。

- 稲盛氏に心酔し、その教え
1. 大志を持つこと
 2. 常に前向きであること
 3. 努力を惜しまないこと
 4. 誠実であること
 5. 創意を凝らすこと
 6. 挫折にくじけないこと
 7. 心が純粹であること
 8. 謙虚であること
 9. 世のためのために活動すること
 10. 善き思いに満ちていること
- に学び工法開発を達成。日本の国際的な行く末にも思いを馳せておられる。



団体交流
講演一龍齋貞花門下
真打昇進披露に
当会正副理事長が参加

協会のイベントに度々ご協力をいただいている講演の一龍齋貞花師匠門下の真打披露の会が、九月東京丸の内盛大に開催に開催され、本協会の正副理事長が揃って祝賀に参加しました。

貞花師匠は、古典の講演を語るだけでなく、様々な新しい試みにも挑戦。その分野に日台に関する創作講演があり、命がけのダム建設で不毛の大地を台湾最大の穀倉地に変えた日本人技師「八田與一」の物語が代表作です。

当協会が製作したドキュメンタリー映画「空を拓く」の主人公台湾出身の建築家郭茂林にも着目、郭茂林を題材とした現代講演を創作され6年前から講演が開始されています。

昨年からは李登輝台湾元総統伝の講演も創作・講演され、日本における台湾への理解を広める活動を拡大されています。

因みにその「李登輝伝」のベースとなった「李登輝秘録」(河崎眞澄著 産経新聞出版刊)には、郭茂林が李登輝氏に台北信義副都心計画(台北市長当時)と台湾国土計画(総統就任時)を建議したエピソードが



一龍齋 貞花 真打昇進披露宴 TOKYO KAIKAN ローズ

令和4年9月28日

収録され、講演でも紹介されています。この度真打に昇進された師匠門下の一龍齋貞花様も、台湾との交流に熱心で真打昇進以前から日本台湾交流協会の催しなどで台湾での講演・講演をされてきていたことが当日紹介されました。

師匠以下一門で、日台の交流と相互理解にますますご尽力下されることを期待いたします。

一龍齋貞花創作講演
「日本最初の超高層建築完成郭茂林」
主な講演実績
・平成二十八年八月三日
初演 日本橋亭
・令和元年五月四日 靖国講談会

特集
会報発行の変遷

本協会の会報発行は平成23年に開始され足掛け十一年、24号になりました。

当初から理事長職に加えて編集までも担当された田代實範名誉理事長に、これまでの発行のご苦労と想い出を振り返っていただきました。

会報23号までの製作に携わって

会員 田代實範

去る11月17日会報編集役員から会報発行作業についての原稿を書いてほしいとの依頼があった。

春に引継ぎをした時にこの業務で難しいのは原稿集めで、半年前には原稿執筆の依頼や募集をすることをお勧めしたが、やはり心配した事態が起きているなど感じた。同じ苦労をしたのでよくわかる。私は書くことを引き受けた。

特定非営利活動法人ベシックフライフインフォメーション協会（以下協会という）は長年休眠状態にあったが平成24年3月東京に再生の計画を提出し、体制を立て直して日本の歴史文化を紹介する事業、親善交流事業を主に台湾に特化して発足した。

バックナンバーは当協会ホームページからご覧になれます。

URL <http://blia.jp> のトップページから「会報」をクリック

再出発の理事会で理事長に互選された私は長のほかに庶務、会計、広報の實務を引き受けることになった。また協会の内部組織である郭茂林ドキュメンタリー映画製作実行委員会委員にもなった。

発足当初協会の会員は10名であったが、会員へのお知らせなどもしたので初期の会報は暑中見舞い、年賀状も兼ねた。第1号から第2号までがそれで実物が残っていない。ワードで原稿を作成したように思うが見あたらなかった。

会報を印刷所に依頼して作ったのはカラー印刷の第6号からである。これに踏み切ったのは映画製作が進みほかの事業も計画の実施が軌道に乗ってきたからである。

真新しいインクの匂いのする出来上がった第6号を受け取った時のうれしさ感激は今も心に鮮やかに残っている。それ以降は年は二回ないし三回発行したが、近年は春と年末の二回に落ち着いている。掲載材料と印刷費等の負担を考えるとこれが限界であるからである。

以降第23号まで順調に発行されている。

会報は協会の顔である。協会の目的に即し事業の内容や行動を正しくわかりやすく知らせる、台湾の文化や風物を紹介した寄稿などをメインにして半年間のトピックスも加えて掲載する。カラーで印刷した会報は存在感があり手に取って見ることが出来る喜びは大きい。

主な原稿は予め理事に回覧あるいは概要を知らせるよう努めた。

外注に当たり複数の印刷所から見積もりを取った。金額、実績等から株式会社盈進社に委ねることを決めた。受注後、同社は協会の目的をよく理解して誠実に仕事をされている。

発行の作業は手描き原稿が多いので一つ一つワードで打ち込むことから始める。文章化した記事の掲載をどこに置くか紙面の割り付けを考え、概略を示した表を原稿写真等と共に印刷会社に送る。

会報作成の作業は夕刻から深夜に及ぶことが多々あった。全てで約10日かかったと思う。

負担が大きかったのはテープ録音からの文字起こしである、外部に委託は一度だけで他はしなかった。講演者の一方は自ら文字化して届けていただいたし、会員外のボランティアが引き受けてくださったこともあった。ありがたかった。

校正は三回行った。発行予定日が迫っているのが急がれた。努力をした。印刷会社の助力もあつて概ね円滑に進んだ。

台湾の方からの原稿の多くは整った日本語文が送られてきた。感謝感激である。

思い出に残るのは、学校交流の橋渡しの成功、台湾人戦没者慰霊碑訪問と追悼、台湾で実施した詩吟剣舞着物着付け大会である。台湾における行事は初の外国遠征であったので記事に力が入った。また交流事業の一つとして高雄市政府消防局に贈呈した救助犬「小江」活躍の記事も紙面を賑わせた。今も元気な姿を会報の写真で或いはスマホの動画で見ることができる。

出来上がった会報は、すぐに会員、元会員や協力者に郵送する。郵送料は一部94円、約百部送る。封筒の宛名書き、切手貼りに封印、投函と忙しい。作業の応援はない。黙々と行つ。残りは催事の時に参加者に配る。

会報作成で頭の痛い問題が起きた。それは編集作業に従事した会員から、業務に当たり相当の労力を払い深夜まで行つたと作業の対価を求めてきたことである。労働の対価を適切に支払わなければならないのは言うまでもない。請求者の心情はよく解わかる。しかし収入は年会費六千円会員20名程度（多い年で30人）と寄付金が全て。他からの補助金等はない。この財政状況で支払いを認めると困窮する、ほかの事業遂行に当たった人の対価はどうなるか。気持ちかわかるだけに辛かった。私は会報に毎号日文と中文で掲載している協会の目的紹介の通り、活動はすべて無償のボランティアでお願いしていると説明せざるを得なかった。

人は一度や二度は無償奉仕ができてても度重なると継続は難しい。協会会員の活動期間が短いのもそれが一因であるうか。特に財政規模の小さいNPOには崇高な使命感が求められると思う。

会報発行は年二回であるが担当者の負担や努力は大変大きい。会員の協力や声援がどんなに励みになることが、私の実感である。今号から私に代わり新しい役員が担う。新構想で素敵な会報が発行されることを期待している。（前会報発行担当者）

「空を拓く」の映画上映を あなたに提供します

上映方式 協会担当者出張によるプロジェクト上映
上映対象 グループ・家族で参加人数3人以上10人以
内、協会会員の紹介のある方
上映日時 ご希望を伺い調整いたします。
上映場所 ご希望を伺い調整いたします。
上映時間 85分
上映費用 無料。ただし上映場所までの出張交通費
は参加者負担
協会製作ドキュメンタリー映画
「空を拓く」建築家郭茂林という男」
ホームページ
<http://sorahiraku.com/index.html>

DVD 沖縄語り部の語り 貸出し

沖縄の歴史と久米島の戦争末期の出来事を語った語
り部 渡嘉敷政子氏のDVDを無償で貸し出します。
申し込み 協会事務局

協会ホームページ

<http://blia.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/bliasoc>

◆会員募集中◆

日本と台湾を主に国際的親善活動をします。
無償のボランティアです。意欲と行動力の
ある方。
年齢・経歴は問いません。
お問い合わせは事務局まで。

特定非営利活動法人(NPO) ベシックライフインフォメーション協会 活動概要

ベシックライフインフォメーション協会は、日本
と台湾の親善友好交流を目的とした活動を行って
いるNPO法人です。会員の会費と拠出、有志の寄
付によって運営する自立したボランティア団体です。
○「基礎生活資訊協會」係本著以日本以台湾親善友
好交流為目的、舉辦活動之NPO法人協會。就是
由於會員會費及各方捐款自主營運的志工團體。

構成員名簿

令和4年12月25日現在

各管理事長	田代 實範※	鳥羽 展維※
理事長	児玉 治	豊川 玉蘭
理事	加藤美智子※	仲里 建良
理事	中村 和利	中村 佳代
監事	郭 純※	中村 敏矢
	上里 佑子	成田 陽一
	M.D.モスタフィズル	根本 崇
	ラハマン・ムフル	畠中 治憲
	江波戸つぎ	林 銀
	神林 有香	一青 妙
	栗原 耕	松山 達郎
	小出 正之	村尾 則広
	小出 智子	矢田富士子
	洪 彩栗	吉川 則孝
	島本 信子	(株)K'sトラス (担当 山下賀久)
	須貝 克俊	匿名
	等々力太偉	

※は映画製作実行委員会委員

●編集後記●

○田代名管理事長より引継ぎ、今回から会報編集を担当
することになりました。よろしくお願いたします。
○交代の節目に会報バックナンバーの特集を行い、田
代氏に、編集を担当してこられたこれまでを振り
返っての寄稿をお願いしました。発行が差し迫って
からのお願にもかかわらず、発行のご苦労や想い
出とともに編集のポイントにも触れていただき、後
任としては有り難い指南書になりました。感謝いた
します。
その中で「新構想で素敵な会報」との期待のことは
もいいただきましたが、暫くは安全運転で発行を継続
することに専念していきたいと思えます。

○今期から理事長に就任された茨城大学名誉教授児玉
治氏は、国際的にも活躍されている農学博士です。
理事長としての所信表明と共に、自己紹介の意味も
含めて専門分野に関する寄稿もお願いしました。
その研究対象であるアングラスの自然の産物ヤコーン
のもつ潜在的効能は、最近あらためて自己免疫力が
見直されている折、注目されます。
○コロナ禍がようやく下火になってきたものの、会員
に陽性者(幸い軽症)が出るなど油断はできません。
後期のイベント開催も留意しながら計画することに
なわでしよう。

○発信の場として会報をご活用下さい。近況報告など
短い投稿もお気軽に、皆様の寄稿を歓迎いたします。

特定非営利活動法人

ベシックライフインフォメーション協会

会報第24号

発行日 令和四年十二月二十五日

発行所 東京都練馬区石神井町六一二二二三

電話 〇八〇七二四二二一一九(事務局)

発行人 児玉 治